

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## 9. 総合研究大学院大学

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-11-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10502/00009604">http://hdl.handle.net/10502/00009604</a>

国立民族学博物館（民博）には、総合研究大学院大学（総研大）の文化科学研究科（地域文化学専攻・比較文化学専攻）が設置されている。総研大は、学部を持たない大学院博士課程だけの国立大学法人で、大学共同利用機関の人材と研究環境を基礎とし、各機関の行っている高度な研究活動に密着した教育・研究を行っている。民博に基盤をおく2専攻は、長期のフィールドワークで得られた資料に基づき博士論文を作成することを目的とし、個別の教員による授業や研究指導と、複数の教員の指導のもとに行われる共通のゼミナールを通して、広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしている。

本年度の文化科学研究科長は、日本文学研究専攻（大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館に設置）の山下則子とその任にあたり、地域文化学専攻長は齋藤 晃、比較文化学専攻長は宇田川妙子が務めた。

## ●葉山キャンパス・文化科学研究科の動き

2018年度、総研大は設立30周年を迎え、国立大学法人化15年目を迎えた。

総研大本部のある葉山キャンパスにおいて、入学式に続き、新入生を対象とする合宿型の集中講義「フレッシュマン・コース」が開催された。本年度は、地域文化学専攻から新入生3名が参加した。

文化科学研究科においては、かねてより連携強化が図られ、2005年度から文部科学省の「魅力ある大学院教育イニシアティブ」事業として専攻を横断して「総合日本文化研究実践教育プログラム」が2ヵ年実施された後、2007年度より「文化科学研究科連携事業」が始まり、民博に基盤を置く2専攻もこれに参加してきた。2018年度は、査読付き学術雑誌『総研大文化科学研究』第15号が刊行され、地域文化学専攻在籍生の論文1本、資料ノート1本、資料紹介1本が掲載された。また、「総研大文化フォーラム 2018 知をわかち、ひとつをつなぐ——研究成果の共有と還元」を2018年11月23、24日に本館で開催し、地域文化学専攻の1年次生6名が学生企画委員として、その企画立案から準備・運営全般に携わった。さらに「学術資料マネジメント教育プログラム」として、文化科学研究科の各基盤機関が所蔵する学術資料を活用し、高度な知識と技術の習得ができる授業が開講されており、本年度は比較文化学専攻の飯田 卓准教授による「学術映像の基本」、園田直子教授による「資料保存学」が開講された。

第67回教授会（2019年2月22日）において地域文化学専攻から1名の課程博士が承認された。

## ●教員の異動

2018年4月1日付で、小長谷有紀教授、川瀬 慈准教授が地域文化学専攻担当になった。同じく4月1日付で、飯田 卓が教授に昇任した。

2018年10月1日付で、寺村裕史准教授が比較文化学専攻担当になった。

2019年1月1日付で、日高真吾が教授に昇任した。

佐藤浩司准教授は民博退職に伴い、2019年3月31日付で総研大教員の併任解除となった。

## ●学位の授与

### 【課程博士】

那木加甫（地域）『中国新疆オイラドの宗教復興に関する人類学的研究——寺とオワー祭祀の復活に関わる転生活 仏シャリワン・ゲゲン14世』[文学]

〔審査委員〕小長谷有紀、韓 敏、南 真木人、

佐々木史郎（総合研究大学院大学・国立民族学博物館 名誉教授）、

鳥村一平（滋賀県立大学人間文化学部国際コミュニケーション学科 准教授）

## ●学生の就職状況

学生の受入を開始した1989年以来、2019年3月末日までに地域文化学専攻・比較文化学専攻を巣立った129名の修了生および退学生のうち、合計68名が常勤の教育研究職に就いた。内訳は、国立大学17名、公立大学7名、私立大学33名、海外等その他の機関5名、歴博1名、民博3名、地球研1名、人間文化研究機構1名である。

## ●入学者選抜試験

2019年度入学者の選抜試験には、地域文化学専攻4名、比較文化学専攻2名、計6名の志願者があり、地域文化学専攻3名、比較文化学専攻2名、計5名の合格者を第67回教授会において決定し、5名が入学手続きをとった。入学定員（各専攻3名）に対する出願者の倍率は累計平均より低めの1.4倍であった。合格者、「志望研究題目」、（主任指導教員、副指導教員）は以下の通りである。

【地域文化学専攻】

川上 香

「トウモロコシと山村の民族誌——その民族植物学的研究」

(池谷和信、鈴木 紀)

李 南瑾

「民族工芸復興の人類学的研究——現代中国におけるペー族の絞り染めの事例から」

(河合洋尚、奈良雅史)

【比較文化学専攻】

WUWUYUNGA

「ラクダと人間との共存関係の動態——中国内モンゴル自治区アラシャー盟アラシャー左旗におけるラクダ牧畜」

(卯田宗平、松尾瑞穂)

古澤瑞希

「佐賀県杵藤地区における鉦を用いる浮立系芸能の伝承と機能」

(福岡正太、笹原亮二)

山本恭正

「地域社会における文化遺産概念とその意味作用について——文化的景観『信仰の山』を事例として」

(飯田 卓、關 雄二)

2019年度入学者も、ここ数年と同様、研究対象である現地での経験を持つ者が多い。出身大学の内訳は、国立3名、私立1名、海外1名で出身大学院の地方別では、北海道、関東、中国、海外となっている。

2019年3月現在、地域文化学専攻と比較文化学専攻それぞれ15名と14名、あわせて29名が在籍しているが、このうち3年次以上には両専攻あわせて18名がいる。これは、教育研究の柱としている長期フィールドワークにそれぞれ出かけているためである。

2018年度は、館内でオープンキャンパス（入試相談会／2000年度から開催）を9月21日に開催した。総研大および民博の概要説明、施設見学、在学生・修了生・教員との懇談会等が行われた。参加者は16名で関東、中部、九州、海外からと多岐にわたった。

●日本学術振興会特別研究員（DC2）への採用

2018年度は日本学術振興会特別研究員（DC2）への採用はなかった。

●地域文化学専攻・比較文化学専攻 教員数（2019年3月現在）

専攻	専攻長	担当教員数
地域文化学専攻	1	23
比較文化学専攻	1	23（基盤機関の長である民博館長を含む）

●地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生（2019年3月現在）

専攻	入学定員	現員			計
		1年次	2年次	3年次	
地域文化学専攻	3	6	3	7	16
比較文化学専攻	3	1	1	11	13

●年度別学位記授与者数

	地域文化学専攻		比較文化学専攻		計
	課程博士	論文博士	課程博士	論文博士	
1991（平成3年）年度			1		1
1992（平成4年）年度					0
1993（平成5年）年度			1	1	2
1994（平成6年）年度	2		1		3
1995（平成7年）年度	2		1		3
1996（平成8年）年度		3			3
1997（平成9年）年度	3		4		7
1998（平成10年）年度	4	2			6
1999（平成11年）年度					0
2000（平成12年）年度	2		2	1	5
2001（平成13年）年度	1	1	2	1	5
2002（平成14年）年度	1	1		2	4
2003（平成15年）年度					0
2004（平成16年）年度	2	3			5
2005（平成17年）年度	4	2		2	8
2006（平成18年）年度	2		3		5
2007（平成19年）年度	2	1	3		6
2008（平成20年）年度	1		1		2
2009（平成21年）年度		1	1	1	3
2010（平成22年）年度	2		2	3	7
2011（平成23年）年度	3		1	1	5
2012（平成24年）年度	1	1	1	1	4
2013（平成25年）年度			1	1	2
2014（平成26年）年度	2	1	2		5
2015（平成27年）年度	3	1			4
2016（平成28年）年度	1	1	1		3
2017（平成29年）年度	1		1		2
2018（平成30年）年度	1				1
計	40	18	29	14	101

